

原子力規制委員会国立研究開発法人審議会  
日本原子力研究開発機構部会 第13回会合 概要

原子力規制委員会国立研究開発法人審議会  
日本原子力研究開発機構部会 第13回会合 概要

1. 期 間：令和2年8月5日（水）～8月7日（金）
2. 部会要領：書面審議
3. 議 題：
  - （1）令和元年度の業務実績に関する意見の取りまとめについて
4. 配布資料：
  - 資料1 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構の令和元年度に係る業務の実績（原子力規制委員会共管部分）に関するご意見の取りまとめ案
5. 概 要：

当該部会は、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構の令和元年度に係る業務の実績（原子力規制委員会共管部分）に関する意見の取りまとめについて審議した。

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構の令和元年度に係る業務の実績  
 (原子力規制委員会共管部分) に関するご意見の取りまとめ (審議結果)

評価軸	ご意見取りまとめ案	
○ 社会的見識、科学的知見、国際的水準等に即してのご意見	① 組織を区分し、中立性、透明性を確保した業務ができているか	<p>○ 規制支援審議会による業務の確認を受けることで、中立性と透明性の確保に努めた業務を行っており、評価できる。一方、中立性・透明性は手段であり目的ではないため、本来あるべき目的の達成にあたっての障害にならないよう留意してほしい。</p> <p>○ 定年制職員を採用して人員を確保し、外部資金も活用することで大型施設の基盤の増強・維持を行っている。</p>
○ 自己評価書の正当性・妥当性、長のマネジメントの在り方等に関するご意見	② 安全を最優先とした取組を行っているか	○ 大きな安全上のトラブルはなく、安全にプライオリティをおいた活動が来ているものと考えられ、評価できる。
	③ 人材育成のための取組が十分であるか	<p>○ 安全研究センター報告会や国際活動への参加を通じて若手育成を積極的に行っており、高く評価できる。海外研究機関への長期の派遣や留学など、さらに積極的な取組を期待する。</p> <p>○ 原子力規制庁から外来研究員を多数受け入れるとともに、大学との人材交流を強化している取組は良い。このような取組を広げることが期待するとともに、どのような形で成果が上がるのか今後紹介してほしい。</p> <p>○ 組織改編を通じて効率的な取り組みや他部門との協力を進めており、評価できる。</p>
	④ 安全研究の成果が、国際的に高い水準を達成し、公表されているか	<p>○ 原子力安全に関する重要な研究を幅広くかつ継続的に実施し、論文等で研究成果を適切に発信していると評価できる。</p> <p>○ HIDRA や CIGMA といった大型施設を使った貴重な研究を積極的に行い、着実に成果を出していることは高く評価できる。今後も継続した取組を期待する。</p> <p>○ 耐震解析技術の高度化に必要な詳細な地震加速度のデータの取得を試みる取組は高く評価できる。今後、測定データを有効活用した研究を期待する。</p>

評価軸	ご意見取りまとめ案
	<p>○燃料デブリのためのモンテカルロ臨界計算について、学術的に興味深い手法の開発に成功しており、優れた研究成果として高く評価できる。一方、このような手法をどのように安全規制に役立てるかについてはまだ検討の余地がある。</p>
<p>⑤技術的支援及びそのための安全研究が規制に関する国内外のニーズや要請に適合し、原子力の安全の確保に貢献しているか</p>	<p>○原子力規制委員会等から多くの受託研究を受け、JAEAの他の部署とも連携しながら規制のニーズに応える研究を実施し、全般として顕著な成果が上げられているものと評価できる。</p> <p>○安全上重要な PCMI 破損について、NSRR での実験データを活用したしきい値の高度化の取組は評価できる。</p> <p>○個人線量分布など、実用上重要な課題について、統計的手法に基づく評価手法を整備し、合理的に線量を評価する取組は高く評価できる。</p> <p>○原子力規制委員会の検討会等への専門家の派遣など規制活動への大きな貢献、および学協会規格の制改定への貢献は評価できる。</p>
<p>⑥原子力防災に関する成果や取組が関係行政機関等のニーズに適合しているか、また、対策の強化に貢献しているか</p>	<p>○全般としてニーズに適した取り組みを真摯に行い、顕著な成果を上げているものと判断できる。</p> <p>○原子力防災に関する研修プログラムの開発や地域防災計画の作成に寄与する様々な研究等を通じて原子力防災の強化に貢献がなされている。</p> <p>○IF 関連で、避難区域の解除など実用上重要な項目についても大きな貢献が認められる。</p> <p>○IAEA などとの国際協力を通じて、幅広い情報の収集・人材育成などが実施されていることは評価できる。</p> <p>○計画を大幅に上回る原子力防災関係者への研修や訓練の支援をおこなっており、極めて高く評価できる。</p>

評価軸	ご意見取りまとめ案
<p>○研究成果の最大化や、適正、効果的かつ効率的な業務運営の確保に向けた運営改善につながるご提言</p>	<p>○引き続き、貴重な大型実験施設の活用や、必要な解析コードの継続的整備を通して、原子力安全に関して先端的かつ網羅的に研究を進展させてほしい。</p> <p>○安全研究は机上の研究ではあってはならず、現場とニーズに根ざした取組が求められるため、安全研究・防災支援部門が JAEA の中で孤立することは望ましくなく、他部門との計画的な人事異動等について長期的な視野に立って検討してほしい。また、安全研究として「やるべきこと」が適切に取り組みされているか、「できること」「やりたいこと」に偏った取組となっていないか、今後も継続して留意してほしい。</p> <p>○学術誌への投稿論文数は従事者数に比べると十分でない印象であり、今後も改善の取組を求める。</p> <p>○研究費の予算や決算が詳細な資料として提示され、予算執行の透明性が増した。</p> <p>○一般の国民に広く JAEA を認知してもらうための努力を日常的に積み重ねていくことで、組織に対する信用が培われていくと考える。特に今回のコロナ禍のような社会・公衆衛生・経済・政治上の大変動に対して、燃料デブリの作業等、代替りのきかない作業領域で感染症が広がった場合の対処方法や、原子力災害と感染症の複合災害場面での避難住民への対策など、原子力の専門家集団として可能な限りの情報発信を独自に行うなど、JAEA が関わることを期待される領域があると思われる。広報については、世間の関心が高い原子力に関連するニュースが出たタイミングをとらえて速やかに JAEA として知見や対策を情報発信する姿勢が求められる。</p>
<p>○その他</p>	